

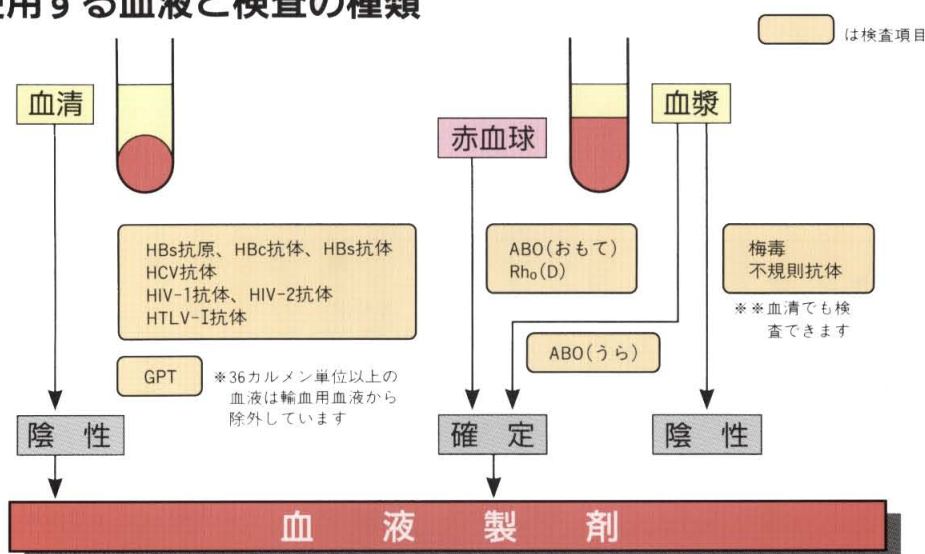
輸血情報

【輸血用血液製剤に行っているウイルス関連検査について】

輸血は、現代医療に欠くことのできない補充療法です。しかし一方で、輸血による感染症（ウイルス性疾患）は皆無とはいえず、輸血療法の中で極めて重大な問題であることも事実です。日本赤十字社血液センター（以下、血液センター）では、輸血用血液製剤の安全性を確保するために、様々なウイルス関連検査を行っています。

現在、血液センターで行っているウイルス関連検査の種類と方法等をご紹介します。

●検査に使用する血液と検査の種類



●ウイルス関連検査の検査方法

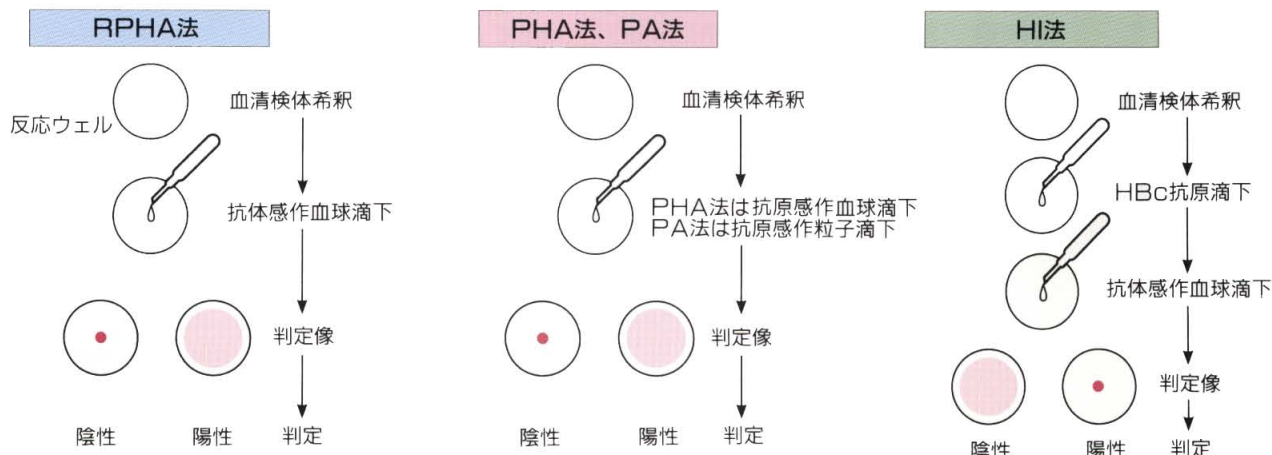
	検査法		検査法
HBs抗原	RPHA法	HIV-1抗体	PA法
HBc抗体	HI法	HIV-2抗体	
HBs抗体	PHA法	HTLV-I抗体	
HCV抗体	PHA法又はPA法		

RPHA (Reversed Passive Hemagglutination) 法
...逆受身赤血球凝集反応

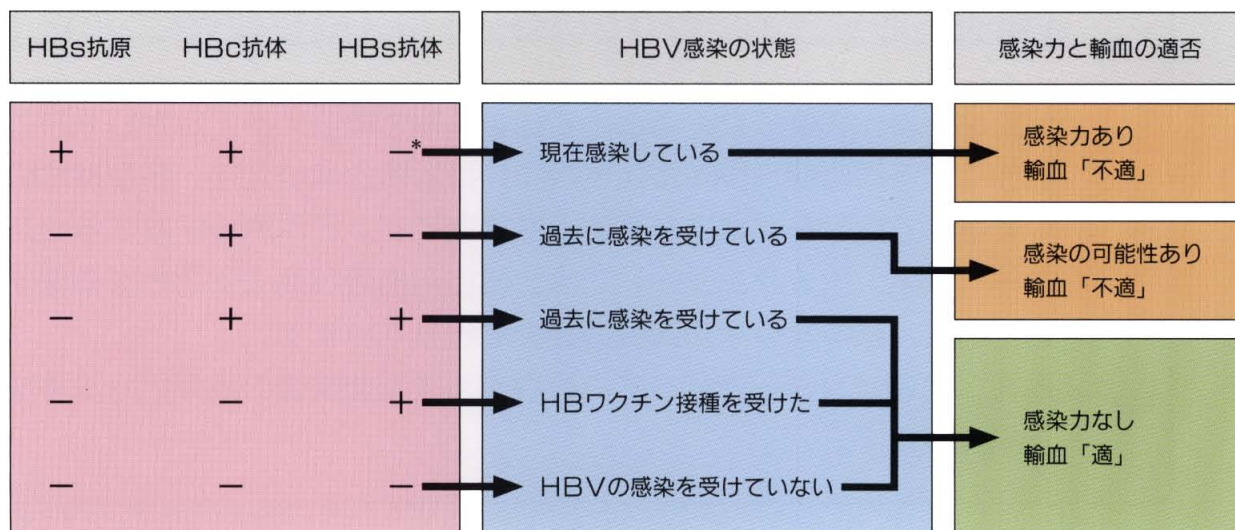
PHA (Passive Hemagglutination) 法
...受身赤血球凝集反応

PA (Particle Agglutination) 法
...粒子凝集反応

HI (Hemagglutination Inhibition) 法
...赤血球凝集阻止反応



●B型肝炎ウイルス(HBV)マーカーの組み合わせと輸血の適否



*まれに陽性(+)の場合がある

【参考】HCV抗体スクリーニング検査法の変遷に伴う輸血後C型肝炎発症率の変化

(厚生省血液研究事業輸血後感染症に伴う研究班・班長 片山 透)

第Ⅰ期：HCV抗体スクリーニング未施行

第Ⅱ期：anti-C100ELISAスクリーニング

第Ⅲ期：PHA(ダイナボット)スクリーニング

年次			輸血単位数				合計
			～5	6～10	11～20	21～	
第Ⅰ期	1988 ┆ 1989	症例数	226	161	131	88	606
		C型肝炎発症率(%)	7 (3.1%)	5 (3.1%)	6 (4.6%)	10 (11.4%)	28 (4.6%)
第Ⅱ期	1990 ┆ 1991	症例数	254	122	91	67	534
		C型肝炎発症率(%)	2 (0.8%)	1 (0.8%)	2 (2.2%)	2 (3.0%)	7 (1.3%)
第Ⅲ期	1992 ┆ 1993	症例数	276	122	68	52	518
		C型肝炎発症率(%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)

【日本におけるウイルス関連検査は、現在世界的にも極めて高いレベルにあります。ウイルスを100%検出できるとはいえません。又、未知のウイルスの存在も否定できません。血液センターでは、より感度と特異性の高い検査試薬及び方法の開発に努めています。】

日本赤十字社中央血液センター 医薬情報部

〒150 東京都渋谷区広尾4-1-31

TEL : 03-5485-6607 FAX : 03-3406-1536

■お問い合わせ